

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月2日
札幌市立西岡中学校

1 本年度の基本方針

- 1 社会に開かれた教育課程の編成・実施
- 2 多様性を認め合い、個性の伸長と主体的な学びを育む教育の推進
- 3 たくましく生きる力を育てる教育の推進

2 本年度の学校経営の重点

- 1 家庭や地域とともにある学校
- 2 主体性を大切にしながら多様な学びの推進
- 3 豊かな心の育成と健やかな体の育成
- 4 一人一人の教育的ニーズに応じた支援・教育
- 5 札幌らしい特色のある学校教育
- 6 教職員の主体的な研修と働き方改革の推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況 ()は昨年	改善の方向	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ
学校運営	1 「お便り」「ホームページ」での学校の様子・情報を伝えている。	5 86.3% (89.9%)	◇ペーパーレス化が進む中、すぐるやホームページでの情報発信を継続して行っている。保護者のニーズを踏まえながら、紙媒体での配布か電子データの配信が適切に運用したい。また、今年度は、主な行事の様子をホームページに掲載した。今後も継続して迅速かつ多くの情報発信をすべく取り組む。学校評価アンケートでは三者とも昨年度から大きなポイントの変化は見られなかった。	A	A
	2 学校・教職員は協力して行事や指導にあたっている。	5 91.1% (86.6%)	◇大きな生徒会の行事として「青翔祭」「陸上競技大会」を工夫して実施、「総合的な学習の時間」では職業体験(2年生)・上級学校訪問(3年生)を継続することができた。どのような力を子どもたちに身に付けさせたいのかという原点に立ち返り、適切な行事を編成し効果を上げることができるように取り組む。学校評価アンケートでは、三者から大きな評価を得られており、昨年度よりも向上が見られたこともあり、評価を5とした。	A	A
	3 学校は、環境美化・整備に取り組んでいる。	4 78.8% (81.5%)	◇昨年度、校舎外壁塗装・体育館床張替により見た目の新しさ・綺麗さは改善された。これをどう維持しながら環境整備に取り組んでいくかが今後の課題として挙げられる。生徒による清掃活動・大掃除を行いながら大切に使う指導も含めて今後も環境美化・整備に努めるとともに、教職員も校内設備や備品の老朽化にとまない、古いものの撤去や新しい備品の整備に努める必要がある。	A	A
学校関係者評価委員会による意見	ホームページなどから学校の様子は伝わってくるが、地域の方が参加できるような行事や公開日を積極的に知らせてくれると嬉しい。学校設備の整備は予算の都合上限界はあると思うが、生徒が健やかに学べる環境を維持してほしい。				

学習指導	9 授業の「ねらい」「ポイント」を生徒に伝えている。	5 88.1% (94.4%)	◇授業の「ねらい」「ポイント」を伝えることによる学習効果は高められていると思われるが、生徒・教職員の回答がともに低下してしまった項目である。授業の始めに学習の「ねらい」を示し、学習後の「振り返り」を適切に実施することで「学びを調整する力」を向上させたい。合わせて「指導と評価の一体化」を推進することが必要で、教職員の資質向上や効果的な方法について研修を深めていくべきと感じられる。	A	A
	10 道徳性を高める授業を行なっている。	5 87.0% (85.3%)	◇学年教師が教師のもつ個性や特性を考えながら、4つの視点22の項目の道徳授業を行った。年に3回の振り返りの活動を通じて、子どもたち自身が自分の気持ちの変化に気付いたり、学年教師が子どもの変化の見取りしたりする活動を行うことができた。年間計画・授業計画をもとに授業指導案・ワークシートなどを交流し、道徳科の授業が楽しいと感じられる授業づくりを目指す。	A	A
	12 TT授業は、学習指導の成果が上がっている・役に立っている。	4 73.6% (77.2%)	◇学校評価アンケートでは、肯定的な回答の割合が低い項目のひとつである。これは、我々教員は反省・改善すべき点であり、子どもたちの学習活動にもっと影響を与えるものでなければならぬと感じる。TT(チームティーチング)授業の目的を今一度考え、有効な時間とすべく検討・改善していく。	A	A

	14 総合的な学習の時間は、将来の役に立つ内容を考慮している。	4 78.6% (77.8%)	◇「総合的な学習の時間」の「キャリア学習」では、「職業調べ」「職場体験」「上級学校訪問」を今年度も継続して実施した。また、「キャリア学習」以外の内容の充実も図り、「旅行的行事」「地域学習・防災学習・ボランティア」などを計画的に行っていく。 今年度は、1学年で豊平区の担当職員に「防災学習」の授業を行っていただき、地域の防災の担い手として災害発生時に活躍できる生徒の育成を目指すといった新たな試みに挑戦することもできた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	9教科の学習については、引き続き生徒が意欲的に学ぶ環境づくりに努めていただきたい。総合的な学習については、生徒が将来の職業選択に必要な力を育み、今後の地域の担い手になるような人の育成につながっている。				

生徒指導	4 「あいさつ」を進んでする生徒の育成を行なっている。	5 89.3% (85.3%)	◇今年度のアンケートにおいても三者の評価に若干の差異が認められる項目で、特に生徒と教職員では捉え方が異なり、改善を必要とする課題である。朝は「おはようございます」、午後は「こんにちは」とお互い自然に挨拶を交わせる関係を築いていきたいと考える。より良い人間関係の上に成り立つ言語活動という認識で、生徒と教職員が一体となって行う「あいさつアクション」を今年度も実施した。	A	A
	5 生徒は、学校の決まり・一般的なルールやマナーを守っている。	4 81.9% (95.9%)	◇昨年度のアンケートから大きく低下してしまった項目である。校内において、多くの生徒が学校の決まりを守って毎日の学校生活を送っているように見受けられるが、教職員87.5%に対して生徒・保護者が80%前半と意識の違いが見られる。教職員が見えていないところでも規範意識をもって生活ができるよう丁寧な指導を行うとともに、家庭や地域との情報共有を密にして多くの視点から子どもたちの現状を分析できるように努めていきたい。	A	A
	7 学校は、いじめ・暴力問題に迅速に対応している。	4 71.9% (76.2%)	◇アンケートでは、保護者・生徒と教職員間で大きく差が見られ、保護者回答は6割程度に留まった。教師の日常的な生徒活動の観察や情報共有、相談活動、保護者・地域との連携により、素早く正確な情報をキャッチすることが必要かつ重要である。また、生徒や保護者との日常的な関わりの中から不安や悩みの兆候を感じ取り、迅速に対応することが求められる。学校内でのいじめ・暴力問題自体は少ないが、札幌市全体で行われる調査だけではなく、本校独自の生活調査を継続して未然防止に努める。	A	A
	8 学校は、困ったこと・聞きたいことにすぐに対応している。	5 86.3% (84.0%)	◇今年度アンケートでは保護者83.3%、生徒86.7%という結果で、昨年度よりもわずかに上昇したが、三者とも100%としたい項目である。より一層の生徒・保護者との良好な関係を築き、信頼の上に成り立つ相談活動等に努める。 今後も教育相談や期末懇談の日程を利用すると共に、いつでも対応できるように相談活動を行う。昨年度から実施のフォーサイト手帳も活用しながら、生徒とのコミュニケーションをとっていきたい。	A	A
	15 生徒は、時間を意識して行動している。	4 81.3% (92.0%)	◇生徒・教職員の両方でポイントの減少が見られ、改善の必要性がある項目である。5分前登校を心がけ、「フォーサイト手帳」記入の時間を確保・指導し、活用を働きかけている。授業前の10分を授業準備の時間として捉え、その時間をどのように過ごすかを丁寧に指導するとともに、多くの教職員が生徒の近くで適切な声掛けができるように努めていく必要がある。	A	A
学校関係者評価委員による意見	生徒が落ち着いて学ぶ環境は整っているように感じられる。生徒や保護者が学校に求める対応には多様性がみられると思うが、生徒一人一人の状況を丁寧に見取り、対応してもらいたい。				

特別活動等	6 生徒は、学校行事に積極的に参加している。	5 89.7% (95.1%)	◇今年度も高い水準で肯定的な回答が多かった項目である。バス代の高騰により断念・変更をせざるを得ない行事もあった。どのような力を子どもたちに身に付けさせたいのかという原点に立ち返り、適切な行事を編成し効果を上げることができるように取り組む。今後の旅行的行事計画等においても社会の情勢にも注意しながら取り組んでいきたい。	A	A
	13 「予定」「計画」を立てて行動・活動できる指導をしている。	4 71.9% (64.2%)	◇昨年度から改善が見られ、特に生徒の肯定的な回答が13.8%上昇し、7割を超えた。「フォーサイト手帳」の取組が定着し、生徒も上手に活用できるようになってきたことが要因として挙げられる。今後も生徒の発達段階に合わせて適切な支援を行い、先々を見通して活動できるように指導を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	行事が削減されている学校も多いなか、生徒が意欲的に取り組める行事を維持していると思う。バス代金の高騰などもあり編成は難しいと思うが今後も続けてほしいと考えている。				

※達成状況の評価は、学校評価アンケートで生徒・保護者・教職員の肯定評価（『①あてはまる』+『②ややあてはまる』のパーセンテージ）を総合し、5段階で評価した。
 ※5段階評価は、85%以上を「5」、70%以上を「4」、50%以上を「3」、25%以上を「2」、25%未満を「1」とした。
 ※学校関係者評価の評価は、「自己評価の適切さ」「改善策の適切さ」とともに良い方から「A、B、C」の3段階で評価した。